

成果の説明書

(氏名) 阿部圭司	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>■研究活動</p> <p>(1) 研究論文（及び作成に向けた活動）</p> <p>(a) 全国規模で大学生の金融リテラシーとお金に関する心理に関する共同研究を実施し、その成果となる論文を投稿、掲載された。</p> <p>① 阿部圭司・木下康彦・小澤伸雄，2023年，「大学生の金融リテラシー形成におけるお金に関する態度との関連性について」『高崎経済大学論集』66(3)，pp.119-134.</p> <p>(b) ESG投資における投資家のリテラシーと心理尺度との関連性に関する共同研究を実施し、その成果となる論文を投稿、掲載された。</p> <p>② 阿部圭司・佐藤敦子・田戸岡好香・水口剛・宮田庸一，2024年，「ESG投資を促進する要因の検討：サステナビリティおよび金融への態度とリテラシーに注目して」『産業研究』（高崎経済大学）59(2)，pp.1-22</p> <p>(c) 株式報酬制度導入企業に関する共同研究の成果となる研究報告を行った。</p> <p>③ 阿部圭司・梁取美夫・葛山康典「株式報酬導入に対するアナウンス効果」，日本経営工学会 2023年秋季大会（愛知工業大学）</p> <p>(d) 地域科学研究所研究プロジェクト（高崎市の製造業研究プロジェクト）に参加，調査対象となる企業に訪問し，第1回の聞き取り調査を行った。</p> <p>(e) 地域科学研究所研究プロジェクト（地域交通プロジェクト）に参加，研究会に参加した。</p> <p>(f) 所属学会にて，制約理論，スループット会計を生産現場における実証に関する研究会を立ち上げた。来年度以降，研究会や学会で報告を行う予定。</p> <p>(2) 出版</p> <p>(a) 地域科学研究所研究プロジェクト（高崎中心市街地に関する研究プロジェクト）の成果となる書籍が発刊された，阿部は以下の担当章に相当する原稿を執筆した。</p> <p>④ 阿部圭司，2024年，「序章 高崎市の中心市街地と本書の解題」『地方都市における中心市街地の課題－人口減少時代とまちづくり－』，日本経済評論社，pp.1-22</p> <p>⑤ 阿部圭司，2024年，「第8章 民間活用による都市公園・緑地の活性化－高崎市中心市街地における利活用－」『地方都市における中心市街地の課題－人口減少時代とまちづくり－』，日本経済評論社，pp.207-231</p> <p>また，同書の内容のダイジェスト版となるブックレットが発刊された。</p> <p>⑥ 高崎経済大学ブックレット⑩『地方都市における中心市街地の課題－人口減少時代とまちづくり－』2024年，地域科学研究所</p> <p>(b) 2011年以来，金融リテラシーに関する書籍を執筆しているが，制度，統計情報などを最新のものに改めた第4版が出版された。</p> <p>⑦ 阿部圭司・小澤伸雄・木下康彦，2024年，『ファイナンシャルリテラシー（第4版）』，同友館</p>	

■教育活動

ゼミナールにて日本経済新聞社が主催する「日経 STOCK リーグ」へ参加した。2年、3年生の6チーム中、3年生の2チームが一次審査を通過し、うち1チームが入選（全国46/647チーム）を果たした。また、高大連携事業の一環として、本年度も高崎経済大学附属高校2年生クラスとのコラボゼミを1年間実施した。7チームが参加したが一次審査を通過することはできなかった。

■その他

【学内】研究科長（2017/4～）として大学院運営（教務，入試等）に携わった。

【学外】高崎市（1）・渋川市（2）で委員会の委員を担当

2 その他の事項

なし

3 次年度以降の計画・抱負

■研究

- (1) 金融リテラシーに関する研究では高校での金融リテラシー教育が導入されてからの完成年度を迎えるため、以前の研究結果との比較研究及び教科書の内容分析を計画している。
- (2) 高崎市の製造業研究プロジェクトが最終年度を迎える。担当する企業に関する前回の取材メモを元に再度訪問し、原稿執筆のための資料を収集したい。
- (3) 地域交通プロジェクトでは鉄軌道の新設・廃止前後における地域経済の変化をDID分析するという方向性で調整している。
- (4) 投資家のリテラシーとESG投資への選好に関する研究も継続する。

■教育

3年次の演習では実験的にこれまでのテキスト輪読から、実践中心への変換を計画している。反転授業のように、あらかじめ基本的学習をゼミ前に済ませ、ゼミの時間には実際の財務・株式データを元に学んだ内容の確認作業を行う予定である。良好な結果が出れば、次年度以降、2年次演習や一般講義へも反映させたいと考えている。